

令和6年度 奈良県 英語教育改善プラン

目標

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成ー児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を目指してー

○授業における言語活動の割合（R5：89.1% ⇒ R6：95%）

○CAN-DOリストの設定状況（R5：67% ⇒ R6：85%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業におけるICT機器の活用
・児童が学習者用デジタル教科書を活用
R5 98.4%
・児童が1人1台端末等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を実施
R4 88.9%→R5 91.0%
- ②パフォーマンステストを実施している学校の割合
R4 96.8%→R5 100%

未だ改善が必要な点

- ①CAN-DOリストの設定、公表、把握の状況
・設定
R4 76.2% → R5 67.0%
・公表
R4 21.7% → R5 21.3%
・把握
R4 52.9% → R5 47.9%
- ②英語による言語活動時間の割合
R4 89.7%→R5 89.1%
- ③一定の英語力を有する小学校教員の新規採用数
R4 9人→R5 4人

2. 要因分析

- ①令和2年度から県域でICT環境を整備したことにより、教員のICT活用スキルの向上と、1人1台端末の日常的な利活用が進んだ結果と考える。
- ②英語教育に関する各種研修での講義等により、言語活動を通じた学びや、指導と評価の一体化への理解が進んだ結果と考える。

- ①CAN-DOリストの具体的な活用イメージをもちにくく、活用に関心するのが難しいのではないかと考える。CAN-DOリスト活用への理解をさらに深める研修を行う必要がある。
- ②言語活動への理解は進んだものの、依然として県内各校に浸透しきっていない可能性がある。
- ③一定の英語力を有する小学校教員の確保がうまく進んでいない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②について

「英語指導パワーアップ講座」等の指導力研修の継続。教員の働き方に配慮し、参加しやすい研修形態を意識した上で、現場において活用が進んでいるICTの効果的な活用や指導と評価の一体化等について、県内教員による実践発表を行い、さらなる指導の充実を目指した研修を行う。

①について

「実践発表」から学ぶ、英語指導パワーアップ講座の実施。小中連携やCAN-DOリストの積極的な活用を行っている地域の事例を取り上げ、具体的な活用等について県内各教員に共有を図る。 ※小・中連携

②について

「英語専科教員連絡協議会」の継続。英語専科教員を各地域の核として、県内各校における言語活動への理解が図られるよう、「英語専科教員連絡協議会」において、言語活動の充実に主眼をおいた実践発表（高等学校における事例を含む）やグループ協議を行う。研修での学びを勤務校や各中学校区で広げよう呼びかける。 ※小・中・高連携

③について

小学校英語教育推進特別選考や中学校英語免許所有者への加点制度の制度の設定を継続することにより、確保に努める。

令和6年度 奈良県 英語教育改善プラン

目標

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成ー児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を目指してー

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（R5：43.5％⇒R6：50％）

○授業における言語活動の割合（R5：49.5％⇒R6：75％）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語担当教師の英語力（CEFR B2レベル以上を取得）

R4 34.4％→R5 40.1％

②CAN-DORリストの公表、把握の状況

・公表

R4 34.3％→R5 38.8％

・把握

R4 54.9％→R5 55.3％

未だ改善が必要な点

① 授業における言語活動の割合

R4 61.9％→R5 49.5％

②生徒の言語活動等の取組状況

・「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」

R5 51.0％(全国63.8％)

・「まとめた内容を英語で発表する活動」

R5 63.9％(全国78.7％)

・「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動」

R5 72.6％(全国82.8％)

③ 英語担当教員の英語使用状況

R4 45.8％→R5 36.6％

2. 要因分析

①英検IBAの実施により、英語担当教員が自身の英語力を意識する機会につながり、自己研鑽に励んでいると考えられる。

②全校を対象にしたCAN-DORリストの公表と活用についての研修を実施。改めてCAN-DORリストについて理解を深めたことが改善につながったと考えられる。

①言語活動を通した学びの充実についての理解が進んでいない。教員間で指導についての情報共有等が、図られていない。

②特に生徒が自分のことを表現する言語活動において、授業改善が進んでいないことが伺える。

③授業を英語で行うことを基本とすることへの理解が十分でなく、生徒の実態に応じた授業展開ができていない可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①について

「児童・生徒の英語力向上アセスメント」事業の継続。
（日本英語検定協会と連携し、英検IBAの全校全学年実施）

各種研修会において、自身の英語力の向上にも努めるよう呼び掛ける。

②①②③について

全校を対象とした「生徒の英語力向上研修」の継続。
英語担当教師間の連携を強化し、生徒が自らの考えを表現する、話すことの[やり取り]、[発表]及び書くことの言語活動に重点を置いた研修内容とする。

小学校英語専科教員の参加を奨励するとともに
県立高校教員の実践発表を予定。

※小・中・高連携

②③について

「英語指導パワーアップ講座」の継続。
言語活動の充実や授業において英語を使用する割合に主眼を置いた研修内容とする。また、参加教員による協議の時間を設定し、各校における取組の共有を図る。

令和6年度 奈良県 英語教育改善プラン

目標

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成ー児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を目指してー

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 52.1%、B1以上 20.4% ⇒R6 : A2以上 54%、B1以上 23%)
- 授業における言語活動の割合 (R5 : 66.7% ⇒R6 : 70%)
- 英語担当教員の英語使用状況 (R5 : 55.3% ⇒R6 : 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CAN-DOリストの設定状況
H30より100%
- ②英語担当教員の英語力
R4 68.2%→R5 78.9%
- ③授業における生徒の言語活動
R4 64.5%→R5 66.7%

- ① CAN-DOリストの指導・評価への活用
・設定 : 100%
・公表 : 69.6%
・把握 : 52.2%
- ②授業における教員の英語の使用状況
R5 55.3%
→R6 (目標) 60%
- ③グローバルに活躍することが期待される層の拡充
R5 20.4%
→R6 (目標) 23%

2. 要因分析

- ①毎年各校からCAN-DOリストの提出を求め、設定状況や内容について確認していることで成果が現れている。
- ②③教員の英語力・指導力に係る研修講座を継続して実施。R3からは、民間企業に委託した研修 (3日間) を実施している。研修受講者には、受講後の外部試験受検を促していることも、資格取得者の増加につながっている。また、教育課程研究集会や学習指導研究会等を通じた継続的な啓発を行っていることで授業改善が進んだと考える。

- ① CAN-DOリストと年間指導計画が連動していない。年間指導計画の作成が不十分であり、目標から指導・評価への一貫性がないケースがある。
- ②授業中の英語使用を増やしていくという意識改革は進んでいるが、即興性のある英語使用に自信をもてない教員もいる。
- ③授業中だけでなく、授業外でも英語を使ってコミュニケーションをする状況や場面の提供が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①について取組その1
各校からCAN-DOリストに係る報告の継続。
- ①について取組その2
CAN-DOリスト活用の好事例を小中と共有。
※小中高連携
- ②について
英語運用能力の向上に実績のある民間企業への委託による研修及び教育課程研究集会や学習研究会等を通じた継続的な啓発。
- ③について
言語活動場面の授業動画を各校種で共有。
※小・中・高連携
- ①について
CAN-DOリストの提出とともに、次年度の年間指導計画を作成して提出。年間指導計画の作成について研修機会の創設。
- ②について
上記研修のほか、オンライン研修を受講した教員による実践発表を行い、自信をもって英語で授業ができるよう英語での指導力向上につなげる。
- ③について
県内の留学生との交流や、WWL事業における「高校生国際会議」の開催 (R4～) 等、高校生が実際に英語を使用する機会を設け、英語で議論ができる生徒の育成を目指す。
※グローバルに活躍することを目指す層を対象とした取組

奈良県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	52.1	54		56		58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	20.4	23		25		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	66.7	70		73		76		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	49.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	69.6	72		74		77		80	
		達成状況の把握（％）	80	52.2	55		60		65		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	78.9	80		83		86		90	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	55.3	60		65		70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	43.5	50		55		60		65	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	49.5	75		75		75		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	97.7	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	78.6	100		100		100		100	
		公表（％）	70	38.8	70		70		70		80	
		達成状況の把握（％）	80	55.3	80		80		80		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	40.1	50		50		55		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	36.6	75		75		75		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	85	67	85		85		95		100	
		公表（％）	30	21.3	30		45		60		75	
		達成状況の把握（％）	65	47.9	65		65		75		85	